

Title	銅鼓に関する二三の安南資料(一)
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1935
Jtitle	史学 Vol.14, No.2 (1935. 8) ,p.110(292)- 110(292)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19350800-0110

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

銅鼓に関する二三の安南資料 (一)

銅鼓に就ては本誌十二卷六二二頁「餘白録」にゴルーパー氏の論文を紹介し、また「東洋思潮」第一回配本中の「印度支那の文化」(上)(二七—三六頁)中にも鼓及しておいたが、なほ銅鼓の問題は支那や安南の資料を蒐集する必要がある。此處に安南本中に見ゆる若干の資料を摘記してみよう。

前條に引用した「群書參考」に銅鼓に関する次の如き文句がある。

鼓鐸銅鏡鈴刀鉦鼓銅鑼

……………銅鼓始見於漢書、以爲南夷之樂、交趾者本國民俗、好用銅鼓、廣東新語有田夫見蛙腿者蛙腿俗名 蛸蟻逐之、入一古墓、掘之得一銅鼓、周圍皆鑄蛙腿之形、蓋古者蠻酋之塚也、黎朝祀典、銅鼓山神、蓋貉龍歸山五十六子之中一人也、雄王辰最顯靈異、雄王以銅鼓賜之、因以名山、李太宗辰、神嘗顯靈、助平三王之亂、立祠於京城右畔、褒封上等最靈神、本朝嘉隆程錄、內載銅鼓之山之銅鼓、爲西山所取、載歸海道、遇風覆沒、未幾銅鼓見于銅鼓山下江津之水中、邑人取之、復歸于神祠、景興丙戌庭元吳公辰仕鸚哥詩集、內載吳公官清華辰、往謁藍山太廟、見前殿右邊梁上懸銅鼓一面、相傳爲吳太祖平吳遺物其鼓甚靈、鼓吏一族世掌之、或鼓吏不虔、臨祭解錘鎚下、而鼓不下、必潔誠祈禱、鼓乃下、不然鼓吏必有死喪、直異事也、按雄王黎祖之銅鼓皆今之大鉦、但周圍甚高、外鑄蛙腿之形、心內甚深、外厚渾堅、非近世銅鉦之比、以之言之、則今之所謂鉦、亦古之所謂鉦、而亦銅鼓之類也、

(一六〇頁に續く)